

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170200234		
法人名	有限会社 マイホームサービス		
事業所名	グループホーム和		
所在地	唐津市双水2626		
自己評価作成日	平成30年11月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年12月18日	外部評価確定日	平成31年2月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>閑静な住宅街にあり、周りは静かで四季それぞれの良さが感じとれる環境である。リビングからテラスがあり、別棟の宅老所が見える。天気の良い日、暖かい日は職員が洗濯物を干す姿や植木に野鳥がとまって実を食べている光景がみられ、ゆっくりとした時間が過ごせる。利用者、その家族、近隣の方、職員、みんながホッとできる環境づくりを心掛けている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>家族アンケートからは事業所の明るい雰囲気が窺える。更に、家庭的な面も特長である。利用者にとって楽しみである「食」は、一緒に献立を考え、冷蔵庫の中身を見ながら決まることもあり、一般の家庭と同じである。天気の良い日には布団を干すことも当たり前の事として支援している。職員同士がフォローし合えるのはお互い様という姿勢からである。それは職場としての雰囲気にも表れている。また調理専門スタッフがいることで職員はゆとりを持って利用者と接する事が出来ている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関よりリビングへ行く壁に掲示しており、管理者と職員で共有している。	理念は「和」の一文字だけである。開設時に管理者(法人代表者でもある)が考え、現在に至っている。込められた想いを集約すると「みんな仲良く」に行き着く。ミーティング時には職員への意識付けを図っている。日々のケアの中で、職員が互いにカバーし合ったり、利用者へ声を掛ける様子にはそれが活かされているのが窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、事業所内で行うボランティアの方からの催し物に参加して頂くよう、町内の方、ご家族の方に声掛けをしている。	回覧板が届き、地域の細かい情報も得られている。ゴミ集積場や集会所の掃除当番にも積極的に参加し、近隣住民とのコミュニケーションを図っている。閑静な住宅地に建つが、周囲には事業所の存在は認知されている。通りで会えば挨拶を交わし、近隣住民を招く機会としてボランティア訪問を活かそうとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られる方には施設内をよく見てもらい、入居者も近隣へ散歩に出てもらおうなどしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者の多くは、週一程度、面会に来られている方で、常にサービス、要望、評価等の話をしているからか、会議では特に意見はない。	一時間弱の会議である。家族には毎回案内を出し数名の出席がある。過去には地域の代表者も出席していたが現在はない。非常事態には協力するとの返事はあるが、2ヵ月毎の会議に疑問が投げかけられ、事業所側に遠慮が生じた状況である。会議内容としては事業所からの報告が主となり、最近では病院情報が家族の役に立った件がある。	事業所が地域密着型サービスとしての役割を果たすためには、運営推進会議を、地域住民に事業所を知ってもらい、理解や支援を得る機会とすることも必要である。今後の地域住民への働きかけの工夫に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議と介護相談員の訪問により、実情やサービスの取組みを伝えている。	担当部署に相談事や問い合わせ等があれば電話やメールも使い、内容によっては直接出向くこともある。行政側とは実直に対応してもらえる関係を築いている。介護相談員の訪問もあり、月に一度、2時間弱の滞在である。利用者の想いを聞き取り、事業所との橋渡し役として意見も伝えてもらえるよう期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。しないよう職員と常に話し合い、対応方法を検討している。	入居契約時に指針の説明を行っている。定期的な勉強会もあり、外部研修へ参加した職員はミーティング時に伝達講習の役目も担っている。身体拘束の内容とその弊害の理解は日々のケアの中で積み上げられており、目標達成計画票でも最初に挙げ、更に理解が深まるよう取り組んでいる。玄関に施錠はなく、自由な暮らしを支援し、行動を抑えることもない。仮に不適切な場面があれば、全体の事として問題提起される。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修があり、参加した職員より、ミーティング時に全職員に再度確認を交え、勉強会をした。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身体拘束、高齢者虐待の件を重要視していた為、学ぶ機会を設けていなかった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明を行い、理解してもらっている。後々の疑問に対しても、その都度説明を行い、理解してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時に声掛けを行い、意見、要望等を頂くようにしている。	入居期間が長い利用者もあり、家族の来所は多い。毎月の利用料を敢えて現金払いにしていることも訪れる理由の1つである。職員は直接話ができる機会を大切にしており、世間話等も交えながら何でも話してもらえるよう努めている。遠方の家族には定期的に電話を掛け近況を伝えている。また家族が食べさせたいと持参された食品も概ね制限はしていない。利用者が望めばケアの下で提供される。職員と同じく現場でケアに関わる管理者は、訪れる家族の体調面なども気遣い、声を掛けることもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度のミーティングの際に意見を募っている。日々の勤務時にも意見がある時は聞いている。	ミーティングは朝9時から約一時間、これには宿直明けや休みの人も出席している。カンファレンスが主だが勉強会等も組み込まれる。議長を当番制としたことで会議への関わり方にも変化がみられる。取り上げてほしい案を募る事も議長の役目であり、積極的に発言する事の意義も経験から理解している。最近の例では、夜間眠れない利用者のケアについて話し合わせ共有している。また管理者としては働きやすい職場であるよう配慮も必要で、職員とのコミュニケーションを図り、休憩時間や定時での帰宅等も含め声を掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段より管理者と職員と話し、働きやすく、やりがいもてるよう、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2カ月に一度のグループホーム勉強会に参加し、他のグループホームの職員や他施設の職員と、ケアの方法、相談等をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム管理者同士のネットワークを通じ、2カ月に1度の勉強会に職員に参加してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初はご本人のしたいようにしてもらい、要望等に常に耳を傾けながら、ケアをし、様子を見ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居当初、ご家族の面会ごとに話し、要望等を聞いて、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご家族に話を聞き、必要としている支援の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理、子育て、家族等について話し、共に生活する家族の一員として接している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族が希望される場合、要望に出来るだけ応えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の自宅の敬老会の参加に対し支援したり、面会時におやつや食事を一緒にして頂く。	入居までの人間関係の把握には本人や家族、担当のケアマネージャー、また利用していたサービス事業所や病院関係者からも話を聞き情報を集めている。それらを踏まえた具体的な支援として、電話の取次ぎや年末には年賀状を書く手伝いも行っている。また盆正月の帰宅や墓参り、法事への出席なども家族の協力を得ながら実現している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼食前に入居者全員、勤務者全員で体操を行う。家事のお手伝いを入居者の状態に合わせて、出来る事をして頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状を出したり、近くに来られた際、来設して頂いている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントの充実を図ると共に1対1でゆっくり過ごす時間を作り、その中で話を聞き情報を得るようにしている。	利用者が想いを話してくれるのは入浴中の寛いだひとときや、隣りで話し相手をしている時に多い。また受診の待ち時間でも同様である。聞き取った事は職員間のやり取りで共有している。また、中には一緒にゆったり過ごす場面が少ない利用者もあることの改善を図ろうとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス提供時に一人一人話を聞き、生活歴等の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録により一日の過ごし方、心身の状態等の把握が出来ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とは面会時、希望等を聞き、職員間ではミーティング時での話し合いのもとに作成している。	見直し設定期間は短期で6か月毎、長期では一年毎としている。入居当初からこの期間である。利用者の希望は日頃のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取っている。直接会話ができる機会に説明等を行い承諾を得ている。また、6か月毎にケアマネージャーによるモニタリングを行っているが、毎月実施へ変更することも検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を見た際のサインをし、情報を共有し、見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージの利用を状況に応じて、行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に協力して頂き、楽しんでもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人一人希望のかかりつけ医に受診している。必要な時は訪問診療もお願いしている。	もともと協力医の患者だった方や、昔からの馴染みの医師の元へ通う方など様々である。それぞれが希望する医療機関での受診を支援している。受診には管理者が付き添うが、日頃から現場に関わっているため利用者の様子は承知しており、医師との連絡もスムーズである。家族への結果報告は当日中や後日で、その状況により対応している。協力医が主治医であれば往診も可能であり、訪問看護ステーションとの連携も心強い。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一で来られる訪問看護師に入居者の状態等、報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、病院に行き、医師、看護師、家族と話をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族より、終末期まで見てほしいとの希望があれば、日頃より話をしている。	入居契約時に指針の説明を行っている。これまでに看取りの経験があり、今後も希望があればその用意はある。看取り時の、特に夜間の場合の対応等の再確認について目標達成計画票にも挙げている。これまでの経験を全員で共有するようにしている。事業所では、容態の変化に伴い揺れ動く家族の気持ちも踏まえ、何度でも話し合いを重ねる事とし、本人や家族が安心して納得した最期が迎えられよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行っていないが、ミーティング時、普段時にレクチャーしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難、消防訓練を実施している。	訓練は昼間帯に実施され、夜間は想定のみである。消防署が立ち会うこともある。近隣住民の参加はないが家族は訪れている。利用者も一緒に避難を体験し、全ての職員は消火器の使い方も理解している。居室から退室済みの合図も決めている。大雨などの際には土砂災害への警戒もしている。今後は一斉連絡網の登録を近隣住民や地域役職者等へお願いする事も検討している。近くの集会所が一次避難場所であり、家族への周知も図られる。非常食や水の備蓄があり、訓練での反省点は速やかに改善するよう努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけには充分注意するよう常に指導しているため、対応できている。	入浴やトイレでの介助は最も配慮が求められる場面である。ドアは閉める、見え難い立ち位置でのケアなど羞恥心にも配慮したケアが窺える。また個人情報の取扱いについては折にふれ指導し、意識が浸透するよう努めている。業務上のやり取りであっても声の大きさに注意を払っているのはその一例である。居室の名札等については改めて承諾を得る予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けをし、本人の希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに出来るだけ合わせ、好きなように過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、毎食後の口腔ケア時に鏡を見てもらい、整容してもらっている。重ね着等にも声掛けしながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭き、配茶を手伝って頂いている。	献立はその都度、食べたい物を尋ねたり、冷蔵庫の中身から考えている。調理中の音や匂いが食事時を知らせるのも家庭と同じである。栄養価は計っていないが、日曜日毎の体重測定は目安となっている。好き嫌いやアレルギー有無の把握もしており、苦手な食材や献立には代替えが用意される。出来るだけ自分で口へ運んでもらいたいとの思いから利用者に応じた形状で提供され、器やスプーン等に工夫もある。職員はお茶を飲みながら同席し声を掛け、時には介助も行っている。誕生日は出来るだけ当日に祝い、ケーキも用意される。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示により、水分量、食事量の制限に合わせ、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず、一人一人に合った口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を利用して、一人一人のタイミングがわかるように自立にむけた支援の努力をする。	排泄に関して自立している利用者もいるが、任せたままでなく、さりげなく見守っている。日中はトイレでの排泄が主である。チェック表から排泄量や回数等が窺え、声掛けのタイミングにも活かされている。便座回りの設備では、手摺りはもとより可動式のひじ掛けもあり、自立を促す補助具となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を利用により、便秘の期間、原因などがわかり、予防、対策につながっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人の希望に合わせて入浴している。入浴を拒否された時は無理強いせず、時間をおいて再度声掛けしている。	入浴は週3～4回を目途にしているが、希望があればこの限りではない。風呂の準備も毎日出来ている。時間帯は夕方でも可能であり、利用者の希望に合わせている。拒む方には職員のテクニックも活かし対応している。入浴しない日でも下着や肌着の交換を行い清潔保持に努めている。浴室の特長はリフトの設備である。歳を重ねる毎に難しくなる入浴を安全に支援している。脱衣場には各々の棚があり入浴準備も整えやすい。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングやソファで休息出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員がわかっているわけではないが、その日の薬を与薬する担当を決め、間違いがないように、後のチェックを何人もで行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者に出来る事をしてもらい、その際にはお礼を言うようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣散歩、ドライブ、病院受診後にカフェによっておやつを食べてもらうなど、出来る限り外に出てもらうようにしている。	本人から外出の希望が聞かれることはないが、テレビ等の情報から話題を振れば興味を示す利用者もある。少人数ずつになるが、車椅子対応車両もありドライブも可能である。天候や体調をみながら当日に決まり、出掛けることもある。日差しを浴び、五感の刺激等も考慮している。介護度の高い一名を除けば、全く外へ出ないという利用者はいない。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、お金をもって頂いている。家族の了解は得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より電話がかかってきた時にお話しして頂いている。本人より希望があればかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花や季節に合わせた飾り物を置き、廊下には外を眺められるよう、椅子、ソファを置き、一人一人が好きな場所で過ごせるように工夫している。	リビングの中央には太い自然木の柱が設えてある。そこから組んだ梁は幹から枝を伸ばしたようにも映り、リビングは大樹の下である。利用者の動線上に歩行を妨げるものはない。換気には注意を払い、定期的に窓やサッシを開けている。掃除は、時には手伝う利用者もあるが、通常は職員が行っている。浴室やトイレもきれいに掃除され、嫌な臭気はない。また、手を触れる箇所の消毒もこまめに行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの座る場所は入居者の状態に合わせて決めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや好みの物を持ち込んでもらい、居心地の良さに配慮している。	火気等の危険物以外に居室に持ち込む品物の制限はない。慣れ親しんだ品物や位牌、家族の写真等を置き、落ち着いて過ごしてもらえるよう支援している。各居室にクローゼットがあることで整理整頓にも役立っている。また天気の良い日には寝具を干し、自宅と同じようなケアに努めている。家族が希望すれば居室での宿泊も可能である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、手すりも付けている。手すりを利用し、歩行練習をしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない